

昭和五〇年度

祇園祭と山車・屋台調査報告書

群馬県教育委員会

序

祭りは心のふるさとであると答えた若者がありました。若者の祭りに対する認識に感心したことでした。わが国の祭りの多くは、氏神祭りとして、春の初めと秋の終りにあります。五穀の豊饒を氏神に祈願し、秋にその豊作を感謝する。この祭りは農耕とかかわっているので、農耕生活が続くかぎり、祭りも存続すると考えられます。

また、夏祭りの代表として祇園祭りがあります。この祭りは、平安時代の昔、都市生活の発展につれて、そこに発生するようになった災害や疫病の流行と関係あります。当時は、その原因を怨靈と考え、それを鎮めるための御靈会として、この祭りは始ったものです。やがて、鉢や山車などが街をねりあるく華やかな祭りとなり、それは全国にひろがっていったのです。

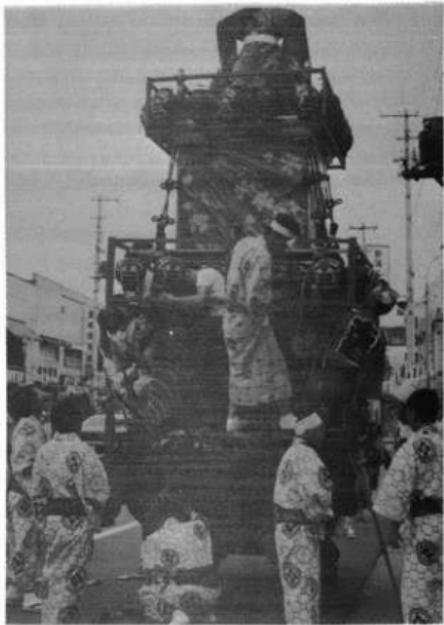
この祭りも、最近では信仰という面は影がうすれ、商業祭りの様相を呈するなど、大きく変りつつあります。それよりも、今では都市生活の変化や道路事情の悪化などにより困難が増し、かっての祭りの姿を消すものもでてきています。

群馬県下における祇園祭りも同様な状況にあると考えられますので、その実情をは握し保護策を検討するため、ここに調査を実施した次第です。

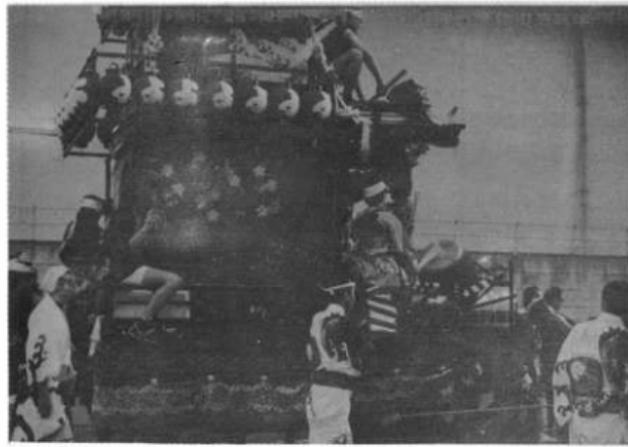
調査に当っては、各市町村教育委員会の担当者を煩わせました。心から謝意を表します。これは担当者から送付された調査表をまとめたものです。御活用に供していただければ幸甚です。

昭和五十一年三月











祇園祭調査

前橋市

	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
1	駒形の祇園祭 7月24日、25日 駒形神社（八坂神社）	前橋市駒形町 駒形神社境内に八坂神社があり、その祭礼である。 氏子は駒形町住民であり、屋台がある。
2	石倉の祇園祭 7月25日 中組（八坂神社） 南組（菅原神社）	前橋市石倉町（中組、南組） 南組の菅原神社境内に八坂神社あり、南組には屋台がある。 氏子は中組、南組と分かれ神社がちがう。
3	青柳の祇園祭（キコ祇園） 8月15日、16日 (昔は7月14・15日) 雀大神宮（八坂神社）	青柳町（上組、下組、西組） 氏子は上組、下組、西組の全戸、屋台は三台あり。雀大神宮に八坂神社の石宮あり。屋台は子供達が引く。
4	東片貝の祇園祭 7月14・15・16日 水天宮	前橋市東片貝町 氏子は東片貝町住民。太鼓など囃子の道具あり 現在は前橋の初市、秋まつりに行われるのみ。
5	上泉の祇園祭 8月23・24・25日 諏訪神社	前橋市上泉町 氏子は上泉町の6小字 昔は4台の屋台があったが今は一台もない。
6	天川の祇園祭 8月25日 八坂神社（天王様）	文京町4丁目 氏子は旧の新町、高田町、天川町住民。現在も囃子などがつづいている。 京都の八坂神社の分社。世良田の八坂神社と仲が悪い。
7	前橋の祇園 現在、前橋まつり 前橋八幡宮	前橋旧市 宝曆、文政の前橋町祇園祭 礼輪図あり（前橋市立図書館蔵） 囃子が紅葉町、才川町などで伝えられている。
8	八坂祭 7月25日 諏訪神社（八坂神社）	前橋市横手町 横手町601諏訪神社境内に八坂社あり。氏子は横手町住民
9	総社神社秋季大祭（本祭） 10月9日 総社神社	前橋市元総社町 氏子の範囲は、鳥羽町、元総社町、総社町、群馬町、大字塙田、 大字東国分、大字福荷台。 昔は屋台が10台あったが現在は9台あり。本大祭はおくんちとも言う。9月15日に氏子総代会を開き、その年に本祭を行うかどうか決定する。 本祭の最終年次は大正14年10月9日である。大正14年には10台の屋台が出た。

	総社神社秋季大祭	星台の出動の順序は	
9		(1) 御神輿	明石町組
		(2) 御神馬(2頭)	下町組
		(3) 屋台(番外1番)	内藤分町組
		(4) " (1番)	石井組
		(5) " (2番)	松田組
		(6) 小ホロ(3番)	伊藤組
		(7) 屋台(4番)	馬場町組
		(8) " (5番)	新田町組
		(9) 鹿子(6番)	上町組
		(9){ 大ホロ(7番)	福木組
		(10) 屋台(8番)	殿小路町組
		(11) " (9番)	阿旁陀寺町組
		(12) " (10番)	栗嶋町組
		(13) " (11番)	金井町組
		(14) " (12番)	中町組
		鉢	鳥羽町組
		(15) 鹿子	稻荷町町組
		(16) 競馬	総社町組

石井組、松田組は石井姓。松田姓で屋台を持つ他の各町内(小字)で屋台を持つ。

高崎市

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
1	諏訪祭 7月27日 愛宕神社	高崎市南町 夏季の疫病除祈願
2	八坂神社天王祭 7月27・28日 八坂神社	高崎市飯塚町 お礼。お供物。花火を町内各戸に配る。
3	下巣岡八坂神社夏祭 7月14日 下巣岡町八坂神社	高崎市下巣岡町 子供樽神輿にて町内巡幸。6時から9時まで夜店。
4	八幡八幡宮祭典 7月29日 八幡八幡宮	高崎市八幡町 みそぎ大祓い、人形を碓氷川に流す。 神輿三台、渡御

桐生市

	1. 名 称	2. 所 在 地	3. 祭 礼 日	4. 神 社 名	5. 概 要
1	桐生祇園祭 昭和38年までは7月20日～25日 現在は8月5日から8日の「桐生 まつり」にあわせて行なう。 八坂神社	桐生市	7月20日 御輿出御、御輿を八坂神社までお迎えに行き。当番町の若衆 が御仮屋までかついでくる。 7月21日 衣装付、付け祭の屋台を出す（実際には前に準備する）。当 番町の若衆が他町の会所に鳴物を入れますからと挨拶に行き。若衆の挨 拶が終り自町内に入ったときに鳴物を鳴らす。 屋台では、三番叟などの祝儀物のあと、芝居がはじまる。 7月22日 各町廻り、若衆が挨拶に廻るが、鳴物のことも告げる。 7月23日 御輿渡御。 御輿は各六町をねり歩くので、人をたのみ若衆はついて歩く。 7月24日 千秋楽、屋台の芝居や出し物は25日の夜が白らむころまで 続ける。 7月25日 御輿意御、御輿を八坂神社まで当番町若衆が納めに行く。		
	柳こり 馬守 柏子木 御常 大団扇 柳こり 馬守 御輿渡御団 丁内警固 台持 御輿 町役人	八坂神社 村松三輪 常木稻荷 社神官 神社神官 神社神官 渡辺 供 小島 供 小島 供 上下にて 同 同 同 同 賽銭	獅子 獅子 獅子 上下にて 同 太鼓 太鼓 太鼓		

明治2年7月23日御輿渡御 四丁目天王町のとき。この行列
順序は時代により多少ことなる。

桐生市本町は一丁目から六丁目まであり、徳川初期桐生新町形成期より
六町内から成っている。天王祭礼（祇園祭）は六町内で交替で御輿を預り
前記日程の祭礼を主体として行なうが、当番町のことを天王町と呼んでい
る。

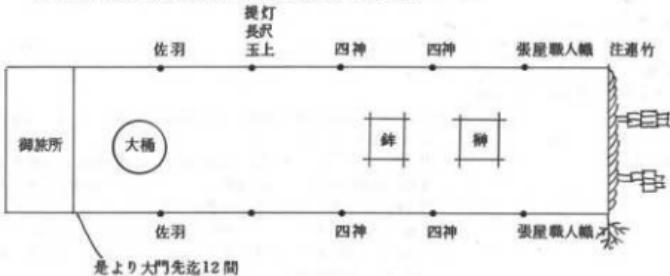
当番町に天王祭の仮宮を建て、これを天王御旅所と言い、また御仮屋とも
称している。天王様が数日間出張するのでこの名がある。

来年天王町となる町内を迎え番町と言い、昨年の天王町を済ませた町内
を送り番町と呼んでいる。このほか付け祭をする町内一町内を含めて天王
番町と言っている。例えば四丁目が天王町のときは三丁目は送り番町。五
丁目が迎え番町で、一丁目もこのときおつきあいをして入り、総じて天王
町と言う。五丁目が当番町のときは、二丁目がおつきあいをするというよ
うになっている。天王番町以外の二町内を休み番町と呼ぶ。

しかし実際にはその年の経済または事情により（町内に大火があったと
きなど）付け祭を休むときもあるが、天王町からの丁寧なる挨拶があり、
おつきあいして付け祭をしている。八坂神社を中心とした行事以外の催し
を行け祭と言っているが、他町内の付け祭には屋台を出している。

御旅所の位置は、その町内の一番上（天神様に近い方）に安置する。役
員組織は、年寄・中老・若衆で、実際活動には若衆のなかの五人から七人
くらいの幹部が世話方と言ってこの人たちが中心に動いている。

明治2年ごろの御仮屋配置図（時代により多少ことなる）



是より大門先迄12間

○祭礼の日程は、「桐生まつり」にあわせているため変わっている。

御仮屋の配置は資料通りである。

○現在も六町内が交替で御輿を預り、天王町として祭礼を行なう。

太田市

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
1	天王様（八坂祭） 7月17日、18日、19日 春日神社境内社 八坂神社	太田市本町 疫病払い、室内安全祈願する祭で、17日に春日神社からみこしを出し、天王番にあたる町内に運んでかざる。18日は疫神祭といい、本町通りから北高通りをまわり各町内で疫神祭を行なったあと天王番町にもどる。みこし（神輿）は大人用が1つ、子供用は1丁目～6丁目の各町内に1つずつある。 みこしをかつぐ時は男丁が白装（白い着物）を着て、えぼしをかぶり、各町の代表はかみしもをつけ、一字笠をつけて、神輿の後について供奉した。女みこしといわれて激しいもみ方はしないものであった。 明治以来の記録がある。 氏子の範囲本町（1～6丁目） 現在は太田祭に統合されている。
2	入町紙圖 7月15日（現在は太田祭に統合） 八幡社 坂上行夫氏宅に神輿をあずかって もらう。	太田市金山町（元の入町） 現在は町内にみこしをかざり、祭典をしたあと子どものみこしだけかつぐ。昔は下馬川に入れてさかんにもんだ。 自動車の上に屋台のようなものをつくり太鼓、笛で紙圖ばやしをやっている。 氏子の範囲入町（太田入を含む）
3	紙 圖 旧7月15日 新8月15日～8月18日 雷 神 社	太田市飯田町 疫病、チフスなど防ぐ祭りであった様である。祭には1家から1人出て参加したそうで、この当時は47家しかなかった。 みこしは始めたのがなかつたそうでその当時は世良田まで借りに行きその行き帰りはかけあしの連続であった。そのうちみこしは村の人から寄付によって出来てからは世良田に借りに行って名残が残り八坂神社までお札をもらいに行っていったそうである。おふだをもらいそれをみこしに乗せなければみこしは生きないと人は思っていたようである。 前日にみこしを出し泊り番がみこしの場所に泊り、その時に獅子舞、天狗みこしなどのせる人をきめ、祭の始まる時は子供が集まりしだいに始まったそうである。獅子舞、天狗、みこしと続き、みこしは女みこしといわれ、獅子舞の中には子供が入り各家を土足で走りまわっていたが、みこしはよる家（嫁）道順はきまっていた。もし違えるとたいへんな事であったようである。その家に行きかき水、きゅうり、すももなどを出でもらい、神官が折り手をたたいて次の家に向かったようである。その日の内に神官がみこしなどを折ってしまうこの祭は、昭和80年頃にやめてしまったそうである。現在は祭典のみ行なう古文書等はない。 氏子の範囲 飯田町
4	紙 圖 7月24日、25日、26日 赤城神社境内社 八坂神社	太田市西矢島 24日 降神祭 25日 本祭 … 渡御あり。あばれ神輿 26日 升神祭 渡御順序一太鼓、神輿（輿の上にわらのつとっこにさした金の幣束をのせる）神輿、神職、参列者

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
		<p>村が広いので、直らいをして解散するのは 12 時頃となる。26 日は、 趣出で祇園祭定、直らい</p> <p>現在、渡御は交通事情悪化のためやらないが、それ以外のこと（祭典等）はやっている。</p> <p>氏子の範囲 西矢島</p>
5	祇園 7月17日、18日、19日 江文神社境内社 八坂社	<p>太田市新島</p> <p>17 日 降神祭 18 日 本祭 現在は 1 日ですませている。 19 日 异神祭</p> <p>現在は朝、降神祭並びに本祭、夕方昇神祭を行なう。</p> <p>大小の神輿があるが、今は子ども用だけ渡御をする。昔の渡御の頭は太鼓、神輿、神輿、参列車</p> <p>氏子の範囲 新島</p>
6	八坂祭り 7月20日、21日 冠稻荷神社境内社 八坂社	<p>太田市細谷</p> <p>2つの神輿があり、新しい方は明治初期に林棟梁が製作したものである。古い方はそれより 100 年程前のものといわれる。</p> <p>渡御をする際、きまとった家で休憩し、酒、赤版が出された。各戸で疫病を防ぐための祈禱を神職が行なった。みこしは男みこしといわれ、煙、庭などに落したといわれる。</p> <p>現在は祭典のみとり行ない、渡御はしていない。</p> <p>氏子の範囲 細谷</p>
7	祇園 7月24日、25日 決まった神社はないが八坂様と よぶ。	<p>太田市高林</p> <p>高林全体が 3 つに分れて夏祭りを行なっている。それぞれに子供用みこしを出す。</p>
8	祇園（八坂祭り） 7月20日、21日 （現在は第 3 日曜日） 八坂神社	<p>太田市東長岡、馬場</p> <p>7月20日にみこしを出し、昼から21日の夕方までもんだ。酒をのみながら各戸をまわり庭に落した。その跡には大きな穴があいた。みこしは普通 18 人ぐらいでかつて、よいがまわると 30 人ぐらいでないとかづけなくなつたといわれる。男みこし。</p> <p>現在（15 年くらい前から）は若い者がかつぎたがらないため、祭典だけやっている。</p>
9	祇園 7月19日、20日 賀茂神社境内社 八坂社	<p>太田市石原</p> <p>最初、みこしは世良田からもらい受けたものである。10 年ぐらい前まではみこしをかいだが、現在は若い者が興味を示さなくなりかつがなくなった。今は、みこしをかざって祭典をし、氏子が参詣しているだけである。さかんにみこしをもんだ頃は男みこしといわれにぎやかであった。</p> <p>また、何年か前までは祇園ばやしもやっていたそうであるが、今はやり手がなくなり太鼓だけ鳴らすそうである。</p> <p>氏子の範囲 石原</p>

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
10	八坂祭り 7月20日 (日は決っておらず、7月の第3日曜日) 八坂神社	太田市東金井1096 東金井のみこしは、金井米穀商が週二回、桐生町の市場に出かけて行き桐生町で新しいみこしを作ると言う事で、古いみこしを金井米穀商が買つて来た物である。かざりみこしで、女みこしである。 10年前頃に若い人が、かつがなくなりやめてしまったが2~3年の間に村に病気がおこり、村の老人達からみこしをかつがないからだとの声が上り、7~8年前からダットサン(車)にみこしを乗せて村を一周している。 氏子の範囲は東金井
11	祇園(天王様) 7月19日、20日 絶縁守賀茂神社、天王様は各区、各字に分れてある。	太田市台之郷 現在では、ほとんどの字が祭典をするだけである。4区ではかつぐ。台之郷2区の久保と向台に子ども用みこしが1つあって八幡様で祭典を行なう。このみこしは旧家の長山氏が造って寄贈したものという。 台之郷2区の新屋敷にも子ども用みこしがある。これは久保、向台との対抗を作ったようなものである。 台之郷8区にも大人用みこしがある。 台之郷4区にもみこしがあり、現在でもかついている。
12	祇園 7月25日 八坂神社	太田市東長岡字伊豆山 現在、祭典を行ない。子どもみこしの渡御だけ見られる。 氏子の範囲 伊豆山
13	鳥山祇園 7月24日、25日 鳥山島崇神社境内末社八坂神社	太田市鳥山 中鳥山と下鳥山にそれぞれ神輿があって、別々に交互にまわす。 渡御の順は、払いの、神馬、太鼓、神轂、神輿、氏子。今は祭典のみで渡御は省略している。 祇園の費用は神社とは別勘定でやる。 氏子の範囲 中鳥山、下鳥山
14	祇園 7月16・17・18日 神明宮境内社 八坂神社	太田市上大島 今は神社境内にお仮屋をたて、そこに神輿をかざり祭典をするだけ(数年前から) 昔は16日に村のほぼ中央にあたる合の道にお仮屋を建て、神輿をかざり17日に祭典をし渡御した。渡御の順は子どもがかつぐ太鼓、御幣、寶鏡箱、神輿、神輿の洗い場は村のいちばん上流ときまっていた。或年下流で洗ったら、かま番の組で2軒から3番が出た。神輿はあばれみこしである。村の3個所(庭の広い家)で休憩した。 18日にお仮屋をこわす。 氏子の範囲は上大島だけ(25戸程度)
15	祇園 7月24日、25日 赤城神社境内社 八坂神社	太田市新野 現在でも祭典をやりお札をくばる。 昔は年番のかいどの広い家をえらんでお仮屋をたて、みこしをかざった。 24日は夜遅くまで年番が番をした。氏子の範囲 新野

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
16	紙 圖 7月 21日 八坂神社	太田市八重笠 7月 21日に八坂神社で神主をたのんで祭典をとり行ない各戸にお札を配る。最後に直らいをする。八重笠には神輿はない。このやり方は今も昔も同じである。
17	仲 紙 圖 7月 20日、21日 八坂神社	太田市大字神之郷 山車と御輿が各耕地を巡回する。御輿は、もまないので女みこしといわれるが、実際にかつぐのは男衆。 20日（宵晩）夕方、山車が各耕地（北沖、東沖、西新）を出て八坂神社のある集会所前で芝居（歌舞伎）をやる。 21日、10時頃、山車を出し、北沖のお藏屋敷で1時頃から歌舞伎を2幕上演する。4時頃から6時頃まで、各耕地を引いて夕食後12時まで5幕ぐらいい上演する。夜1時頃各耕地へ引上げる（これがにぎやか） 御輿は10時頃八坂神社を出て、碓氷神社へ行き、その後各耕地をめぐり区長宅、お藏屋敷で休憩する。行列は天狗が立つまで居続けなければならぬ。星頃（1時頃）八坂神社へ帰る。 御輿の行列順序一万灯（耕地ごとに8つ）、天狗、御幣、賽銭箱、神馬（変わらで荷駄を作りその上に御幣をさす）、御輿、神主、中老（村の頭役）、世話番、總代 24日に紙圖勘定のため集まり百万選（ないだ）をやる。これは現在でもやっている。山車は昭和44年以降休んでいる。御輿行列は昭和30年頃まで出たが今はかざるだけ。 氏子の範囲 神之郷 古文書等、祭のしきたりについて書いたもの（明治と最近のもの）あり。
18	紙 圖 7月 20日 愛宕神社境内社 八坂神社	太田市菅塩 お札を各戸にくばるだけで、祭典も省略している。しばらく前までは早朝全氏子が神社に集まり、境内林の下草刈をしたあと祭典をとり行ない、お札をもらって帰った。神輿はない。 また、久宮から四天王様を19日に借りて来て、まつり、夜何人かで夜番をし、翌日全氏子で厄病払いをしたこともある。 氏子の範囲 菅塩
19	金井紙圖 7月 25日 駒形神社境内社 八坂神社	太田市北金井 ほとんど子どもだけで運営しており大人はタッチしない。これは戦前からのしきたり、神輿の組立て、お仮屋作り、お札作りなど子供だけでやっている。 24日の晩、村内の小中学生が社務所に泊り込む。 25日早朝、神前に作ったお仮屋で祭典終了後お払い、賽銭箱、太鼓、神輿の頭で渡御をし、各戸をまわりお札を配る。 大人用の神輿はない。 氏子の範囲 北金井

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
20	紙 講 7月24日 菅原神社境内社 八坂神社	太田市西長岡 7月23日 前夜祭 7月24日 本祭典 23日に神輿をお仮屋にかざりかま番(年番)が徹夜で番をし24日に本祭をしてお払い、神職、神輿、有志の順で村中を渡御してあるいた。 数年前から若い者が少なくなったので、今ではお札を各戸にくばり。神輿をかざるだけでかつがなくなった。 氏子の範囲 西長岡
21	下強戸紙講 7月24日、25日 八幡神社境内社 八坂神社	太田市下強戸 戦後、25日前後の日曜日に変更したら村に悪事が起りまた25日に一定した。戦後しばらく渡御を省略していたが、最近、若い者の希望を入れて復活した。 渡御の順序、お払い、太鼓、神官、神輿、供奉者、神馬は予め2人で村中を引いて回る。昔は気にいらない家では神輿があげられたが、今はそういうことはない。 氏子の範囲 下強戸
22	上強戸紙講 7月14日、15日 熊野神社境内社 八坂神社	太田市上強戸 戦後しばらく渡御もやっていたが、今は神社前に仮宮をつくり、そこで祭典をするだけ。 以前は神輿を川(新田堀)に投げ入れ2組に分れてうばい合ひをした。他村からも元気のよい若衆がもみに来た。 氏子の範囲 上強戸
23	八坂祭り(石橋紙講) 7月20日、21日 特定の神社はない	太田市石橋町 数年前までみこしをかついだが、今は交通規制により警察より許可が出ないのでかついでいない。 神社は決っておらず、当番町がお仮屋を作り天王様を祭り神職におがんでもらっている。この祭は宵祭りの方がにぎやかで、屋台(昔は山車を引いた)で演芸をやっている。 氏子の範囲 石橋町(治良衛門橋)
24	紙 講 8月8日 八幡神社	太田市中根新田 現在は祭典のみとり行なっている。
25	紙 講 7月27日、28日、29日 稲荷神社境内社 八坂神社	太田市藤阿久 27日 陣神祭 28日 大祭 29日 昇神祭 渡御は戦後はほとんどやっていない。 今日は祭典だけやっている。 くるわごとに天王番を輪番制でやっていた。 氏子の範囲 藤阿久

番号	1. 名 称 2. 所 在 地 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	5. 概 要
26	祇園 7月24日、25日 飯玉神社境内社 八坂社	太田市由良 神輿は明治初期に作ったもので戦後しばらくかついでいた。男みこしといわれ。川の中に投げ入れたり。けんかなどもあったようだ。現在は村の中央の島岡氏宅前の広場にみこしをかざり神輿に祭典をしてもらっている。子どもみこしは時々かつぐことがある。 25日に世話役が集まり神社に納める。 氏子の範囲 由良
27	祇園 7月18日、19日 十二所神社境内社 八坂神社	太田市別所 現在はみこしをかざり祭典をするだけ。 戦後しばらく渡御をしていた。あばれ神輿で、西の川に投げ入れてもんだ。総代は羽織袴で供奉してあるいた。みこしのかつぎ手には赤飯と胡瓜のブッ切りを出した。 氏子の範囲 別所
28	祇園 8月6日 日吉神社境内社 八坂社	太田市下田島 今日では神社で祭典をやって、各戸にお札をくばるだけで渡御はやっていない。 氏子の範囲 下田島（東田島、西田島）
29	祇園 7月15日（現在では第2日曜日） 只上神社境内社 八坂社	太田市只上 お仮屋を作り、そこにみこしをかざり祭典を行なう。各戸にお札をくばる。昨年まで青年がかついだ。 氏子の範囲 只上
30	祇園 7月14日、15日 雷電神社境内社 八坂社	太田市原宿 14日にお仮屋を作り、かざりつけ年番2・3人で夜番する。 15日燈籠本祭をしたあと渡御をする。 渡御の順は先導、太鼓、天狗、鉦、神馬（現在は馬を船にかけて人が乗つ）万歳、神輿、みこし、供奉者、みこしが2つあり、男の天王様と女の天王様とよんでいる。 4人1組となり蓑束を着用してかつぐ。 子どもみこしは自由にかつぐ。 各戸で餅を2、3重ねづつもって神社へもってくる。 参加者はすべて竹製のお払いをもって渡御する。 以上のやり方で現在もやっている。 氏子の範囲 原宿
31	祇園 7月22日 神明宮境内社 八坂社	太田市下只上 現在でもお仮屋を作り、その中にみこしをかざり祭典を行ない。渡御をやっている。 暑は小学生が、夜になると中学生が提燈をつけて渡御をする。夜が特にぎわう。 氏子の範囲 下只上

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
32	紙 團 7月25日 福荷神社境内社 八坂社	太田市猿楽 現在でも祭典を行ない、子どもみこしだけ渡御をしている。 渡御の世話は正有会の人が3名出てやる。各戸にはお札をくばる。 氏子の範囲 猿楽
33	紙 團 7月24日、25日 鹿島宮境内社 八坂社	太田市吉沢萩原 石宮の八坂社で祭典のみ行なっている。昔からみこしはない。 氏子の範囲 萩原
34	紙 團 7月25日 源訪神社境内社 八坂社	太田市矢田堀 現在はみこしをかざり、祭典をし、お札と供物を氏子に配るのみで渡御はしない。 氏子の範囲 矢田堀
35	紙 團 7月16日、17日 賀茂神社境内社 八坂社	太田市丸山 現在は祭典をやったあと、子供みこしだけが渡御をする。 みこしは大人用が2（大は80貫、小50貫）と子供用の計3つある。 昔さかんにもんだ御は、あばれみこしで有名で、国道の流れをとめてしまったり、休泊川に投げ込んでもんだりした。 丸山ぎよんは雨ときまっていた。 氏子の範囲 丸山
36	紙 團 7月16日、17日 源訪神社境内社 八坂社	太田市吉沢字七日市 現在、子どもみこしをかつぐ。 昔から大人みこしはなかった。 子どもみこしも戦後作ったもので、それ以前は石宮の八坂社で祭典だけやっていた。 氏子の範囲 七日市
37	紙 團 7月14日、15日 八幡宮境内社 八坂社	太田市市場 現在はお仮屋をたて祭典をするだけ。 昔はよくもんだ、15日はみこしをうぱいあいながらもんで、夜が明けてしまったこともある。 氏子の範囲 市場
38	紙 團 7月14日、15日 住吉神社境内社 八坂社	太田市吉沢字落内 現在はみこしをかざり祭典をやるだけ、みこしは大人のものと子どものものとがあった。渡御を行なった頃はあばれみこしで、新田堀に流し、隣部落まで流れてしまっても酒の上りが少ない引き上げなかつたという。 氏子の範囲 落内
39	紙 團 7月17日 桶柄神社	太田市市場字高根 特に祭礼はやらないが、子ども用みこしがあり、子供たちが今でもかついている。

沼田市

番号	1. 名 称	2. 所 在 地
	3. 祭 礼 日	5. 概 要
	<p>沼田祇園祭り（沼田祭りと称する） 8月3日、4日、5日 須賀神社（櫻名神社も附祭として執行される。）</p>	<p>群馬県沼田市</p> <p>(1) 例祭の特色 イ 神輿は（荒魂）あばれみこしと称し渡御に際しその特色を發揮している。 ロ 各町が山車を奉納するならわしとなっているが年によってその数に増減がある。 ハ お旅所となる仮屋は真田信幸の時に勧請した位置に造営される。現在は輪番制となっている。（仮屋）</p> <p>(2) 氏子の範囲 イ 旧沼田町全域が氏子となっている。 ロ 明治5年に12ヶ町あった氏子を6ヶ町ずつ分け、須賀神社、櫻名神社に分けた。 ハ 明治14年から両神社合同の行事となり、同じ日に祭りを執行するようになった。</p> <p>(3) 古文書等の有無 イ 古文書有 ロ 初山家年代記、幕末名主記録等</p>

渋川市

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
1	渋川の祇園 不定(明治初期は9月1日～2日 現在は8月) 八幡宮 八坂神社	<p>渋川市(旧渋川町及び熊野)</p> <p>渋川の祇園がいつ頃から始めたかは、詳びらかではないが、記録によると寛政7年に如来寺が祇園の世話役となり、渋川八幡宮にて開催されている。その頃の祭りは山車などではなく、町の各所で「芝居」「賄り」「角力」「義太夫」等が行なわれていた。江戸末期から明治にかけて本戸上の世話する八幡宮の祇園祭と上之町、中之町、下之町で世話する八坂神社の「神輿」による祭礼とが合同して祭りが行なわれるようになった。</p> <p>明治12年には、9台の屋台が引き出されているが、それ以前から丸万灯角万灯をあげ、その上に人形などをのせて、花や提灯で飾りつけて引きまわしたと伝えられるが、町に電車が通る様になってから火を低くして屋根形に改造している。14台ある「山車」のうち上之町で明治28年に勾欄(コウラシ)付の「山車」を購入した他は、大部分が大正、昭和の年代になって購入、または製作したものである。明治、大正、昭和と各町内ごとに世論を高めて買い求め祭礼に街路をねり廻し、なかでも鎮守八幡宮参りの、八幡上りの勇み太鼓は、近隣衆望の頂点に達し、若者達は一段と活気満ち渋川祇園の真価は、ここで発揮された。</p> <p>この祭りも、交通事情等により、一時祭典を中止していたが、昭和43年頃より道路の整備がなされ、祭典を復活したが伝統ある祇園も不可能となり産業祭的な祭りになりつつある。現在「山車」を所有する町内は14あるが、他から借用して祭りに参加する町内もある。</p> <p>祭礼日は、9月1日、2日であったが、明治29年より祭礼がまちまちになり、現在は「渋川祭り」という形で、8月の中、下旬に行なわれている。</p>
2	金井の祇園 7月25日 八坂神社	<p>渋川市金井(上、中、下、本町、南町)</p> <p>この祇園祭の起りは詳びらかではないが、町内(上、中、下之町、本町、南町、四町)が一体となって催されたのは、明治になってのことと言われている。</p> <p>例祭の7月25日には各区から青年が集まり、丸木8本を「かつぎ棒」として組立て、50～60人の若者が寄って「神輿」をかつぎまわる。</p> <p>重い神輿に音頭取りと、お灯番が乗り、先導役の大提灯の振り方によって、前進、停止をする。</p> <p>日暮れ近くになると、気勢をあげて「ワッショイ」の掛け声も荒く、金井の各町内をもみ歩くのであるが、非常に乱暴で「あばれ神輿」としても有名である。</p> <p>各町内には、休憩所が開設され、酒も出るので、神輿はその本領を充分に披露し、最後には、村の鎮守八坂神社へ渡御した後、宿の中ほどまで上り駄やかな祇園祭が催される。</p> <p>最近は、神輿を自動車に乗せ、かわりに「子供天王」が町内をまわるようになつた。</p>
3	八木原の祇園 7月15日 八坂神社	<p>渋川市八木原</p> <p>祭りの10日前になると、宿の中ほどに「お仮屋」が建てられ縁め縄が張られて「神輿」が安置されて一般の参拝を受ける。</p> <p>祭礼の当日(7月15日)神主の祝詞があげられ、白装束姿の4人が、</p>

<p>神輿をかつぎ、町内を渡御し「四方かため」の行事をする。 氏子總代は、鳥帽子をかぶり、神輿の列に加わり村人の安泰祈願をする この日氏子の家々では、ご神灯をつけ赤飯を炊く。 八木原の祇園祭の起源は詳びらかではないが、江戸時代後期とおもわれ ている。</p>	

藤岡市

番号	1. 名 称	2. 所 在 地
	3. 祭 礼 日	5. 概 要
	<p>藤岡の祇園 7月14日、15日及び 19日、20日の4日間 八坂神社</p> <p>市神を祭った2社があり、笛木通り鎮守護謨神社及び勧堂通り鎮守富士浅間神社境内にそれぞれ鎮座する。</p>	<p>藤岡市藤岡、旧笛木通り及び勧堂（ゆるぎどう）通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 藤岡の祇園祭は、昔の市日が4.9（勧堂通り）1.6（笛木通り）の日だったのに因んで、鎮守の夏祭と合わせて、7月14日から21日まで8日間行なわれた。 ○ 神輿、護謨神社・浅間神社及び両八坂神社に計4基の神輿があり当番の町内の若衆が出て担いだ。当日の朝、神馬の背に幣束を立て白丁が付き、神輿の巡路を「露はらい」と称して清めて回った。（戦前）夕方、神主・天狗・おかげ・幣束・神輿・太鼓・巫・ヒツキ・綱・剣・鉾・高張提灯などの一行が行列を組んで各町内を巡幸した。神輿の渡御は深夜まで及んだことがあった。勧堂通りと笛木通りの両者の神輿が向き合うと、よくけんかになり、交通事情も加わって、轟るだけで巡幸しなくなった。 ○ 屋台、笛木通り5台（大戸町1・2・3・4丁目）、勧堂通り8台（5・6・7丁目・仲町・鷺匠町・古桜町・緑町・宮本町）合計18台の屋台があり、7月14・15両日及び19・20両日に出ますが、現在は交通事情のため20日夜だけ巡幸する。 ○ 屋台の上で若衆や子供が演説する祭バヤシ（シャギリ）は、サンテコ・キリカニ・屋台バヤシ・四丁目・カゴマル・通りバヤシ・オオマ・カマクラ・ショウデン・オオバコ等の歌曲がある。曲は笛木通りは佐波郡小此木から、勧堂通りは高崎市阿久津から伝習したという。楽器は大太鼓、小太鼓3、鑼2、笛2、3が割って屋台の上でぎやかに演奏する。 ○ 屋台は秩父系統で、人形等を飾る山車形式はない。明治時代に、四つ車の車台だけで、祭の時、ヨシ賀や障子張りの屋根を掛けて屋根にし、花万灯を飾るのが何台かあり、道祖神屋台と称した。大正4年及び昭和3年の2回のご大典祝賀を記念して屋台を改造、製作する町内が増し昭和21、22年ごろ、現在のような形が創った。 ○ 資料、江戸時代末、菊川英山作「浅間社祭礼卷」（元治元年作）長さ約4m、幅27cmは、神輿渡御の行列の人数355人を描き出した傑作である。

赤城村

番号	1. 名 称	2. 所 在 地
	3. 祭 礼 日	5. 概 要
	4. 神 社 名	
	溝呂木の神輿 毎年8月27日 諏訪神社	<p>勢多郡赤城村溝呂木 宝曆3年(1753年)1月北橘村八崎で新調したもので北群馬郡子持村北牧の大工後藤氏作である。</p> <p>溝呂木には、明治の初期に八崎村から譲渡されたと伝え。附属にいろいろ有ったことは珍らしく近年まで神輿を担ぐ時着用した白衣2~3着が残っていた。烏帽子は見当らなかったが、古くは神輿渡御に担ぐ人等大勢の烏帽子白衣が揃っていたことを物語る資料といえる。</p> <p>この神輿は例年8月27日に部落の役員と青年が参集して職守の諏訪神社において祭典を行い神籠を輿に差し出発の準備完了となると区長から渡御についての訓辭があり終ると神酒を後交して担いで出発、駒場、新井、久保、大坂、宿の順路で部落を1廻りして諏訪神社に帰着する。</p>

大胡町

番号	1. 名 称	2. 所 在 地
	3. 祭 礼 日	5. 概 要
	4. 神 社 名	
	大胡町祇園祭り(徳川中期) 7月27日、28日 八坂神社(牛頭天王、須佐之男命)	<p>勢多郡大胡町 祭の準備—7月15日に「八丁じめ」を張る 本祭り 7月27日夜祭り 28日神幸式 午前10時より 7月28日獅子が町内をめぐる。 古文書 昭和22年大水害の際流失</p>

柏川村

番号	1. 名 称	2. 所 在 地
	3. 祭 礼 日	5. 概 要
	4. 神 社 名	
	深津の祇園 8月27日、28日 八坂神社。 祭神(牛頭天王、須佐之男命)	<p>勢多郡柏川村大字深津打越組 深津村一円の氏子 祭の準備は8月27日燈籠お立て。神輿と奉仕者は大祭に備えて(渕みごと)に入る。 27日~28日は屋台を出して、組の大通りを引き廻る。 夏の大祭として盛大に行なう。</p>

吉 岡 村

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
	大久保の祇園 7月14日、15日 八坂神社	北群馬郡吉岡村大久保 祭礼の前日、氏子の中より当番の家何軒が使われる。この者たちがその部度決められた家に集り、色紙と割竹を使い造花を作り、神社の前にては笹のついた青竹を立て、これに幣のついた七五三鯛を張り、供物をそなえて神主に拝んでもらう。これは育祭りの14日の夕方までに済せ、夕方になると当番は神社の前に用意されたご神灯に火を入れる。氏子の人たちはナスキュウリなどを供え、御要請をあげ（米）をそえて礼拝する。 祇園中は農作業を休み、胸まんじゅうを作つて食べる。 ※ 古文書は見当らない。

鬼 石 町

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
	鬼石の祇園 7月14日、15日 八坂神社	鬼石町大字鬼石地内 祭典委員長は区長がなって、進行係、若連寺 古文書なし。八坂神社の禮あり。

松 井 田 町

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
	松井田の祇園（坂本の祇園） 8月15日（10月15日） 新堀八幡宮（坂本八幡宮）	碓氷郡松井田町松井田（同坂本） 松井田の祇園 10年前位に山車を出したが、その後は獅子舞のみにとどめている。 松井田町上町、中町、下町、北横町、南横町それに新堀分の森崎が加わって大規模なものである。 古文書としては八幡神社氏子総代の家に代々引ついで八幡宮御祭礼相定め控帳があり、宝曆6年から明治30年までのことが詳細に記されている。 坂本の祇園 八幡宮の祭礼として坂本宿内のみでにぎりおこなわれた。氏子は坂本宿全城である。 古文書は佐藤熙家に（旧社家）にある。

吾妻町

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
1	岩下の紙面祭 7月20日 八坂神社	吾妻郡吾妻町大字岩下一円 1. 神輿の渡御と山車の渡御を行なう。（大村、机、天神（紳山）塙貝戸の順に渡御）神輿に約30人、山車一台に50～60人付そつて行行列をする。神輿1台、山車4台あり。 2. 氏子の輪廻 大字岩下全域約250戸にて行う。 3. 古文書 神輿賀付台帳、祭例記等あり。 4. 行 事 7月1日村の両入口に八丁じめを張る。役員紙面の相談に入り、こどもは太鼓の練習に入る。青年も祭例の寄附行為に入る。7月18日山車の飾付。19日前夜祭、昭和18年頃までは19日も山車の行例あるも現在は交通事情にて中止20日午後2時より5時まで村内一円神輿1台山車4台にてはやしながら渡御を行なう。 5. 市神に因む紙面である。 明治年間5・10（ゴトウ）の市が岩下に開かれこれを盛にするために行われた。（明治27年7月より始まる）
2	原町の紙面祭 7月26日 八坂神社	吾妻町大字原町

川 場 村

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
1	生品の祇園 7月23日 武尊神社	利根郡川場村大字生品 祭礼の前日、青年団員が出て祭典の準備を行う。 当日朝、神輿を中心に神社絶代、村の役員等で神事をし、神輿に移し、「八丁じめ」を張るため村の境まで出る。 順序は、天狗（1人）・屋台・御輿の順で6ヶ所に七五三廻張りをする。 隣居、当住ともに出る。 註) 現在は、祭例も小規模となり、從来のように毎年行っていない。 古文書もあるようであるが、まだ調査されていない。
2	天神の祇園 7月20日（現在は7月 22、23日卯） 武尊神社	利根郡川場村大字天神 祭例の前日、準備にかかり、当日は朝から神輿に祈禱していただき「八丁じめ」に出かける。 八丁じめには天狗を先頭に御輿の渡御が氏子の家々をまわる。 御輿のあとから屋台がつづいてまわる。 註) 従来は在建連中（現在の青年団のようなもの）が中心となって祭典を行っていたが、現在は天神全体で行っている。ただし、今見は人員の減少からここ10年ほど御輿の渡御も屋台も出でていない。

水 上 町

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
1	小日向の祇園 7月23・24・25日 八坂神社	利根郡水上町大字小日向 7月23日と25日に御輿を出す。御輿は大人用と子ども用とあり、祭神牛頭天王である。 村の青年連が村中をかつぎまわり疫病除をする。御輿の出来た年代は明治以前であると思われるが、文献等なし。
2	鹿野沢の祇園 7月23・24・25日 八坂神社	利根郡水上町大字鹿野沢 7月23日と25日に御輿を出す。祭神牛頭天王。村の青年連が村中をかつぎまわり疫病除をする御輿の出来た年代は、大正以前と思われるが、文献等なく不詳。
3	湯原の祇園 7月23・24・25日 八坂神社	利根郡水上町大字小日向 7月23日と25日に御輿を出す。祭神牛頭天王。村の青年連が村中をかつぎまわり疫病除をする。御輿の出来た年代は大正以前であるが不詳。文献等なし。

玉村町

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
1	<p>玉村の祇園（以前は天王さんといふ呼び方が多かった。） 7月22日（宵祭）同23日（本祭） 四丁目は戦前は7月14日、15日であった。 八坂神社、七丁目の石祠には「天王宮」と刻す。</p>	<p>玉村町上新田（四丁目） ，下新田（五丁目、六丁目、七丁目） 神社は、下新田は絶氏神玉村八幡宮。上新田のは同地区的福荷神社の末社としての石祠であるか、祭当日には、例幣使街道筋即ち町の大通りに神輿を据えて奉斎する。以前は、五丁目六丁目の八坂神社は大通りに所在したので、市の神の性格を帯びていたと思われる。</p> <p>主宰は各町の若連と称する20才台の青年で、これに子供が参加する。以前は綱いの浴衣だったが、現今は市販の綱いの法被（祭と書いた）である。現在のように、人形を飾った屋台を引き、笛・縦・太鼓の稚子をその上でするようになったのは、大正の中頃からと推定され、それ以前は連送車に小屋掛けをした仮屋台を引いた期間が数年あり、尚それ以前は小屋掛けの櫓の上を行なった。これは明治後期からであろう。大正15年新屋台を作つてからは、戦時中を除き毎年行なっている。</p> <p>御輿には昔から胡瓜などが供えられたが、水乞など特殊な祈りをこめたものではなかったか。</p>
2	<p>角園の祇園 7月14日（宵祭）15日、以前は7月20日だった。風雨に拘らず行なう。 八坂大神、地区を二分し、堀西は角園八幡宮の本社としてその境内に、堀東は、角園2193にそれぞれ石祠あり。</p>	<p>玉村町大字角園 主宰は、両組とも15才から24才までの若い衆で、これに子供が参加し、太鼓稚子を屋台で行なう。 神社には、組から四升餅を供え、祭の後で細分し、おみごくとして組内に配る。 祭日は、各家で赤飯を焼き、うどんなど打つ。 （参考） 祇園祭は、玉村より早く、明治初期にすでにあったようである。彦太郎日記（報告者の父）によると、明治24年7月20日に「角園村ニ行タ。此日八坂神社祭典ナリ。様り人形アリ」と記され。その頃から盛んだった、明治中期になり、地区の主産業・蚕種業宣伝をも兼ねて、益々祭りを盛にもり上げた。 但し、現在は費用や、若衆の人数不足等で2・3年中止している。</p>
3	<p>悪魔ッ払い 7月24日夕方翌25日（本祭） 但しあ祭り行事は、神なく、赤飯を焼き神様に齧る伝である。 八坂神社、但し坂塚は、同地区坂玉神社内、藤川は同地区的福荷神社内の石祠である。</p>	<p>玉村町大字坂塚同藤川 昨年の県の総合調査に於て、芸能関係の中で報告したが、地区的子供がさん猿二枚からなる手製の獅子頭を冠り幣束を持った大勢の子供が「悪魔払い」と叫びながら、地区内を練り歩き、各家からお礼の賽銭を貰う。 リヤカーに載せた太鼓を叩きながら、共に廻るので屋台を持たぬ村の代用祇園の觀がある。</p>

蔽 塚 本 町

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
	<p>大原祇園祭り 現在 7月30日 昭和45年頃まで7月25日で あった。 八坂神社、二社あり、 一社は飾り社 一社はねりみこし</p>	<p>新田郡蔽塚本町大原6区 特色 1. 全町にしめ縄をはる。 1. 昭和の初め頃まで「じんべい」を行った。 (馬の背に「ごへい」を飾って町中をねり歩いた) 1. みこしを若衆がかついで町中をもみながらねり歩いた。 氏子の範囲 大原全区であり、4組に区切られ 1・2・3区 上町組 4区 中町組 5区 中町組 } で4年に一度祭りが廻ってくる。 6・7区 下町組 (六千石も含めて)</p>

大 間 各 町

番号	1. 名 称 3. 祭 礼 日 4. 神 社 名	2. 所 在 地 5. 概 要
	<p>大間々町の祇園 8月1日・2日・3日 八坂神社</p>	<p>山田郡大間々町大字大間々 寛永9年6月24日(今から約350年前)町の商人や農民など氏子によ って五穀豊穣、商売繁昌、疫病退散を願い農作物の神である素戔嗚尊すな わち八坂神社と祭礼し祇園祭が始められた。 元治元年に江戸へ材木を出している商人細内彦兵衛に頼み江戸表より神 輿を買い求め一丁目、二丁目で1組、三・四丁目で1組、五・六丁目で1 組と三組で思い思い思考をこらして御神輿の後にづづき渡御が行なわれた 元禄の頃になると大名行列、花火燈、山武士姿、若衆姿で渡御になったと いう。幕末のころになると山車に変り10m近くある山車の上に人形を飾 って引きまわした。現代でも引き継ぎ行なわれている。</p>

屋台・山車調査表

番号	前橋市										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
所有者	新元田町組社	馬場元總町組社	金井元總町組社	栗島元總町組社	中元町總組社	松元町總組社	駿元小路町總組社	弥陀寺元總社	石元井總組社	山王町有	
現在台名	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
創建	明治	明治以前	明治末期	明治初め	江戸末期	わからない	明治初年	わからない	わからない	明治中頃	
改造・修理	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
備考	総社神社に保存（保存状態悪い）	馬場町に保存（保存状態悪い）	栗島町に保存（保存状態悪い）	古文書あるらしい。	中宿町に保存（保存状態良い）	昭和二十八年に屋台を引く。	駿元小路町公会堂に保存（保存状態良い）	組み立てられるが引くことはできないかも知れない。	阿蘇陀寺町公会堂に保存	石井家に保存	山王町に保存（保存状態良い） 昭和八年に屋台を出す。 山王町の日枝神社 秋まつり 十月十七日

屋台・山車調査表

番号	前 横									
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
所有者	西善町有	西善町有	西善町有	西善町有	氏電子会	向神社	向神社	駒形町	石倉・南組	青組子供連
現在台名	な	な	な	踊り屋台	山	な	な	な	な	な
創建	明治初め	明治	明治中頃	江戸末期	明治初期	わからぬ	わからぬ	大正	大正	大正
改造・修理	なし	なし	なし	なし	山車の前輪を昭和一六年に改善	なし	なし	なし	なし	なし
備考	西善町一三八三狩野住興宅に保存(保存良い) 明治末か大正初め荒砥村より買ってきた。(下大屋 か)はりものなどあり、日枝神社秋まつり	日枝神社秋まつり 屋台の部品一部あるのみ	日枝神社秋まつり 屋台の部品一部あるのみ	西善町一丁目八ノ一雷電神社に保存(保存良)	平和町一丁目八ノ一雷電神社に保存(保存良し) 組み立てて引くことができる。ほりものあり、 前橋市内の屋台は向町を残して戦災で焼ける。	駒形町に保存(保存良い)	七月二十四・二十五日 駒形神社	駒形町の祇園 青柳町に保存(昨年引いた) 青柳町に保存(大正以前は荷車で屋台を作つて引いた)。	青柳町の祇園、八月一五・一六日雀大神宮 青柳町に保存(七月二五日 音原神社石倉町南組に保存)	青柳町の祇園、八月一五・一六日雀大神宮 青柳町に保存(七月二五日 音原神社石倉町南組に保存)

屋台・山車調査表

市				高崎市				
21	22	23	24	1	2	3	4	5
富田上原組	富田北下組	上野佐組鳥	中上原佐組鳥	本町一丁目	本町三丁目	常盤町	歌川町	並復町
なし	なし	なし	なし	狸々之舞	石橋の舞	牛若丸	藤原定家馬	鏡獅子
明治以前	明治以前	明治	明治	昭和三年	不	大正六年	大正十年	不明
なし	なし	なし	なし					昭和二十二年改造
富田町上原組保存 城南地区的民俗(貢二六一) 参照のこと	三柱神社 十月十七日(神嘗祭) 富田町北下組保存(城南地区的民俗参照)	上佐鳥町上野組で保存 春日神社 秋まつり 十月十七日	上佐鳥町中原組で保存 春日神社 秋まつり 十月十七日	作者、東京浅草浪花流庄田七郎兵衛 モデルは六代目秀五郎 幕、高崎市通町新井道平作 付番品、上り電、下り電、高山人	人形、歌舞伎狂言より、作者木庄市 裏、本町三丁目松勝 太鼓(大一、小二)、纏一、横笛三、 狸々之舞は目出度い事で、 幕、高崎市通町新井道平作	人形、子供のシンボルとして牛若丸とした。 敷巣甲、済溝秀作 上幕、波に千鳥、中幕、孔雀	人形、相川勝治作 人形、浅草人形館 幕、棟梁、相川勝五郎 幕、西陣織とラシヤの幕	当町内に獅子があるので、それにちなんで 松本幸四郎の似顔で作る。 高崎市黒川市太郎作 幕、相川勝治作

屋台・山車調査表

番号	高崎市										(第一、第二)	北通町 新田義貞公
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
所有者	並塚町坂下	相生町	九重町	高砂町	山田町	成田町	新紺屋町	寄合町	羅漢町	大黒	人形、本庄市、米穂人形店製 幕、新井道平作	
現在台名	三条小金治	為朝公郎	静の舞	神武天皇	木花開耶姫命	不動明王	三番叟	弁慶勤進候	大黒	昭二十一年		
創建	大正十二年	大正十三年	昭二十二年	大正五年	大正十三年	昭和八年	昭和三年	大正三年	昭二十二年			大正十三年
改造・修理												
備考	人形由来、昔歌舞伎がお福萬様を信仰したので、お福萬様が変化して金治屋に手伝ったという。 作者不明	人形、高崎市新町黒川人形商店 幕、嘉多町、新井刺繍店作	人形、高崎市新町黒川人形商店 幕、嘉多町、新井刺繡店作	人形、戦後、新連法発布記念と平和の持続を祈念して、その象徴を女性像として製作した。 浅草、林正之助作	人形、浅草、米富久作 幕、嘉多町、久保川良慶店	人形、岩瀬 幕、嘉多町、丹頂堂製	人形、東京浅草、浪花原人形店製 幕、新井道平作	人形、岩瀬 幕、嘉多町、丹頂堂製	人形、高崎、米富久作 幕、嘉多町、久保川良慶店	人形由来、三〇〇年前より伝わる獅子舞があり、その中に大黒様の踊りがあるので、それにちなんだ。 黒川明玉作	人形、本庄市、米穂人形店製 幕、新井道平作	

屋台・山車調査表

高崎市										
16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
田町四丁目	旭町	新南町 (第一、二 三) 町	和田町	下和田町 目町	講地町	住吉町	連雀町	赤坂町 (第一、二 二) 町	柳川町 (東、中能 共 有)	日本武尊
電神の舞	籠塙	諏訪明神	楠公	菅原道実	牛若丸	羽衣の舞	蘭陵王	桃太郎	猿田彦大神	昭二十五年
大正十一年	昭二十二年	大正六年	大正十三年	大正初期	昭和九年	昭二十三年		昭二十四年	大正十三年	大正十三年
人形、能狂言電神の舞、モデルは有名な能役者と伝う。幕、高崎市北通町新井利織店製。	人形、能狂言電神の舞、モデルは有名な能役者と伝う。幕、新井利織店製。	人形、諏訪明神を町内に祭つてある。 鬼家小倉作兵衛作（諏訪作）							人形、埼玉県本庄市人形店製 幕、喜多町武井利織店、丹頂堂製	人形、中山道赤坂の道を猿田彦大神が造つたと言わ れ、高崎市の発祥の地、赤坂村にちなんだ。 黒川一郎作
									人形、昔から商人町であるから宝物を先方から町内 へ持つて来るという伝説が古老の話としてある。 黒川人形師作	人形、東京浅草人形師 幕、東京高島屋デパート製
									人形、東京浅草人形師 幕、久保川良慶店製	人形、東京浅草人形師 幕、喜多町、丹頂堂製
									人形、本庄、米富、松崎富司作 幕、喜多町、丹頂堂製	人形、黒川人形師 幕、あけみ屋製
									人形、本庄、米富、松崎富司作 幕、喜多町、丹頂堂製	人形、黒川人形師 幕、あけみ屋製

屋台・山車調査表

番号	高崎市										人形、不明 幕、不明
	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
所有者	弓町	田町	通町	八幡町	新田町	下横町	末広町 一、二、三 (第)	本 (第二)町	金町	倉上 (下賀野町)	
現在台名	翁	神功皇后	乙姫	神功皇后	浦島太郎	天照大神	静御前	弁天様	時	倉上 (上賀野町)	一
創建		大正十二年	大正二年	昭和二年	明四十三年	昭和六年	昭和十一年	大正二年	不	明	明三十五年
改造・修理											
備考	人形、埼玉県本庄市、松崎福松作 幕、高崎市通町、新井店製	人形、親世流(市川團十郎の顔) 埼玉県岩槻市、作者不明	人形、埼玉県本庄市、松崎福松作 幕、高崎市通町、新井店製	人形、大正天皇即位式の記念の為、大正二年親和会 の方々の熱意によつて始まり、縦崎専助氏が責任者 となつて作る。 賛成した人、竹内一郎、岡庭、加藤春喜、 作者不詳	人形、作者不明 幕、作者不明	ご祭典に際して製作した。 人形、山本福松作 幕、うろこ織。	人形、埼玉県本庄市、米福人形店製 幕、高崎市幕多町、丹頂堂製。	人形、埼玉県本庄市、米福人形店製 幕、高崎市幕多町、丹頂堂製。	本町三丁目松勝 製	人形、現在、北小学校の校庭に弁天池と呼ばれた池 と、弁天様を祭った社があり、これを本町で守つて いたので、それにちなんで作った。 東京浅草橋、大六天、横山人形店製 幕、幕多町、丹頂堂	

屋台・山車調査表

屋台・山車調査表

番号	太田市					沼	
	3	4	5	6	7	1	2
所有者	西新耕 冲之郷	南冲 耕之地	各一ノ六 町内本町	太田市 太田 橋町市	石太 橋町市	太田市 丸山	下之町 中町
現在台名		現在はなし					な し なし し
創建	江戸中期頃 より盛んに 行われた。 創建不詳		各町内まち まちで不詳 ?	大正年代	江戸末期	不 詳	不明 昭和四十八年改造 清水町から購入
改造・修理	花山車建立に関する二つの記録がある。 一つは明治六年購入(金七〇円也)と、次は明治三 十五年建築(金一〇〇円)。明治六年の仕用帳によると紅葉、櫻等、電舞の大 工町田氏の作品である。	文政十六年修理、牛頭天王の記録あり。					ものである。 5お囃子等は他地区から名人を招いて行っていた。 近年沼田市の各所に受難がれた者がいる。 各町毎に曲はちがつている。 人形は毎年一定したもののがなく時代の変遷などによつて顔をかえている。(現在は人形は同じもの を毎年使用)
備考	太田、福居より部品とりよせ、明治五年頃大修理。 各部品の交換を行つた記録がある。	現在、東耕地と合併 明治初期まで山車一台あつたが、戸数過少のため、 他村に譲渡して東耕地に合併。 各耕地の山車とも、昔は歌舞伎芝居の外、通行中は 人が衣裳をつけて、人形がわりとなつて見世物とな ったとの話がある。	各町に一台、計六台あり。				大正頃までは盛んに使つていた。 昭和以降はあまり使わなくなり、現在、全く使つて いない。

屋 台 · 山 車 調 查 表

田 市		渋 川 市										
3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
上之町	材木町	一元番組宮	二裏番組宮	三川原町組宮	一上番組町	二中番組町	三下番組町	新町四番組	五寄番組町	坂下町さ組	長塚町な組	並木町並組
なし	なし	武内宿弥	日本武尊	神武天皇	弁財天	水戸光圀 (電神)	須佐之男命	神宮皇后	仁德天皇	猿田彦之命	菅原道真	日本武尊
不明	不明	大正八年	大正四年頃	大正七年頃	明治十六年	大正三年頃	大正二年	大正三年	大正二年	大正六年	昭三十二年	昭三十二年
昭和四十九年改造	昭和五十年改造			昭和二十年頃向拝彫刻完成	昭和三十七年衣装購入						昭和四十年頃向拝台の修理	
43	21	神奥の後に行列をつくるならわしである。 初山家年代記。幕末名主記録等を参考にして次に示すと、文政八年、文政一〇年、文政十一年の記録として文政形式がとらえていたことがわかる。現在これ人形つき屋台は「まんどう」と称している。			明治二十八年購入							渋川で製作

1 神輿の後に行列をつくるならわしである。

2
柳山家年代記 文政元年主高知守を參朝して御に示すと、
文政八年、文政一〇年、文政十一年の記録として

万燈形式がとられていたことがわかる。現在これを「まんどう」と称している。

3人形つき屋台は明治の初期からと記載されています。4屋台は他地域から購入されており、極めて粗末な

波川で製作

屋台・山車調査表

番号	葵川市					藤					岡				
	12	13	14	15	16	1	2	3	4	5	6	7	8	9	仲町
所有者	辰巳町辰組	南	熊野	中金本町 ・井下上原宿中	八下上木・原宿中	大戸町	一丁目	二丁目	三丁目	四丁目	五丁目	六丁目	七丁目	八丁目	仲町
現在台名	須佐之勇命	な	熊野權現	神興	神興										昭和
創建	昭四十六年	昭四十五年	昭二十年頃	明治初期	明治二十年	大正四年	明治	明治	明治	大正四年	明治	明治	明治	明治	戦後製作
改造・修理						埼玉県児玉町から踊り屋台を購入し、高さをつめて改造した。	四つ車の車台にヨシ養蚕りだったか、大正四年改造して屋根を付けた。	日露戦後祇園祭には車台に張りぼてを飾った。	組立式の車台だけだったか、昭和三十四年に改造して現在の形となる。	大正天皇ご大典祝賀に改造した。	大正天皇ご大典祝賀に改造した。	小川大工が補修	小川大工が補修	古い屋台の飾り板は桃太郎曾根がテーマ	飾り物は虎に因む。寅年に改修したため。
備考										昭和三十一年、再度改修	昭和三十二年、再度改修				

屋台・山車調査表

市				大胡	柏川村	鬼石町					群馬郡箕郷町	
10	11	12	13	1	1	1	2	3	4	5	1	1
龍王町	古桜町	緑谷町	宮本町	大胡	深津打越組	三杉町	相生町	上町	仲町	本町	東箕男郷屋町	大下久保町保
明治	昭和三年	昭和二十一年	明治	明治	話では明治のものと前後に創建と伝えられる。	昭和五年	昭和十二年	昭和七年	大正十一年	昭二十二年	な	し
昭和二年	昭和二年	昭和二年	新嘗法発布記念に新造する。	昭和二十五年外装修理	明治の初年現在の屋台。改造修理は大正十五年頃の補修	古い車台は組立式だったので、昭和四年に改造する。	宮大工嘉平大工と猪熊与平治大工の補修と伝えられる。	埼玉県本庄市製	影刻大工、黒沢五郎	不明	不明	四輪の車座の上に屋台を組んだもので、例年九月十九日(の鉄守様の祭り)には屋台を組み辻等におき、屋台には囃方が乗って賑わした。大正十年頃、屋台を売って片づけてしまった。
三輪車、飾り物は卯年なので兎に因む。	古い車台は廃棄。	古い車台は廃棄。	細部については不明。昭和二十二年大水害の際、文献流出。	未完成のままとなる。(不景気のため)								東明屋町に屋台老台があつた。

屋台・山車調査表

番号	吉岡村				万場町	下仁田町						
	2	3	4	備考		1	2	3	4	5	6	7
所有者	大久保中町 大久保上町	田三 津久 端屋保			森戸(万場一区 八幡 三区宮)	栄 町	上 町	仲 町	下 町	旭 町	東 町	本宿
現在台名	なし	なし	なし	台名は不明		鏡 獅子 様	橘 公	楠 公	静 御前	日本武尊		
創建	不詳	不詳	不詳	明治時代以前と思われるも 不詳なるも	大正十四年	昭二十五年 頃	昭二十九年	昭十六年頃	昭和十四年	昭和七年	明治初年頃	
改 造 ・ 修 理	不明	不明	不明		なし	同左	同左	同左	同左	同左	同左	
備考				屋台小屋の中に保管 二、三、四については、昭和十一年以来使つしたこと なし。	創建当初は、万場町大字万場三区の所有であったの を八幡宮に奉納し、八幡宮の所有となる(昭和四十 年)	砂川幸太郎大工 神戸木吉工務店	影刻は武州(埼玉県)の人に依頼して仕上げる。	人形、本庄市 同左	神戸工務店	仲町より寄贈を受けたもの。 日露戦争の戰勝祝に神田より購入したものと伝えら れている。		

屋台・山車調査表

甘 桑 町										松井田町				吾妻町(岩下)	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	1	1	2
金井組	猿森神社	猿森神社	猿森地区	小幡横町	小幡上町	小幡仲町	小幡下町	椎現堂組	天引本村組	上町	中町	下町	全(坂本宿)町	大村組	机組
明三十年頃	不明	昭二十二年	徳川中期?	徳川中期?	徳川時代?	徳川時代?	徳川末期?	享保年間?	屋台	沖宮皇后	安寧天皇	御幣	不明	明治三十年	昭和四年
なし	不明	なし	なし	不明	不明	不明	不明	なし	宝歴以前	同左	同左	同左	不明	大正十年火災にあり。現在に至る。	山車を作り大正八年屋台に改造し、大正十年火災にあり。昭和四年作成。
朝廷屋台	大屋台	花屋台	花屋台						花屋台	二階建屋台で人形を飾る明治四十五年牛込萬十郎宅火災の際、屋台のふすまは焼けたが本体、人形、偶は現存す。	不明	不明	不明	不明、拜殿天井裏に格納	大正十年の現存のものは、人形屋都源太郎正行が作る。昭和八年一月焼失。昭和十年新造。 大工加藤明治 土地の大工合同作。

屋台・山車調査表

番号	吾妻町(岩下)			(上出町)		川場村			水上町			玉		
	3	4	1		1	2	1	2	3	1	2	3		
所有者	天婦 神山 組	津貝戸 組	新紺下上 屋之井 町町	天 神	生品 青年團	小日向区	鹿野沢区	湯原区	五丁目	五丁目	六丁目			
現在台名														
創建	明治三十年	昭和二年		天明年間	臺木から、 文久年間と 推察される	大正の初め	大正十五年頃	昭和三十三年頃	昭和三十年、柱六本を取替えた。	慶応三年頃	大正十五年	改造、修理なし		
改 造 ・ 修 理	木の車を終戦後ゴムタイヤにした。 上之町、下之町二台	御大典記念昭和二年山車を作る。その後破損し昭和 二十七年屋台を新造しこれが現在に至る。 岩下一同大村組の山車一台を用いる。 昭和二年改造成屋台にする。その後修理しつつ現在 に至る。	明治末期車輪の改修をする。 大正年間、何回かにわたり支柱をつめた。 (電線のため)	古文書が武尊神社の倉庫にあるらしい。	社庫中の所有であったが、人員が少なくなったので天神の所有となっている。 大正四年社務所の火災により、古文書等記録類は全くない。	昭和七年苗木貢大工改造			子供屋台 大正十五年 棚梁青柳幸蔵 頭 田村梅吉	本屋台 八幡宮隨神門建築用材の余材で作ったといわれる。 八幡宮大祭のみに出す。重いので2を作った。	青年屋台			
備 考	組大大工合同作	松若村大工水出隆二氏作る。昭和二十七年のものは組内大工共同にて作る。	計四台 八丁しめは七月十一日とし											

屋台・山車調査表

村町				坂塚本町	大間々町			明和村	千代田村
4	5	6	1	2	1	1	2	3	1
六 丁 目	七 丁 目	四 丁 目	堀 角 西 組 瀬	堀 東 組	大原五 区	五 丁 目	六 丁 目	二 丁 目	明 和 字 中 谷 村
									氏 赤岩八幡宮
									不 詳
大正十五年	大正十五年	明治初期			宝曆年中	昭和三十一 年新里村、 山上より購 入したもの	昭和二十九 年より購入 したもの。	明治二十年 頃作つたも のらしい。	不 明
					昭和二年頃大修理、後隨時補修				現在のものは何年頃つくられたか不明であるが、金 物を一ヶ所も使用しないのでかなり古い時代の物 と推定される。しかし、明治十一年館林城大門門を 取こわした材料をもらい受け大修理が行なわれ更に 昭和二年にも色を塗りなおしたと言い伝えがある。
八幡宮大祭の際出走す。					昭和二年大修理、塩野次郎大工				漆山車正面屋根ぐしのところに電の彫り物がある。 昭和三十七年まで行なっていたが現在では道路 がせまく更に山車引く者が少くなり八幡神社前 に飾る程度です。
本屋台									

昭和51年1月1日 印刷

昭和51年3月31日 発行

編集 群馬県教育委員会文化財保護課
発行

前橋市大手町1-1-1

電話 0272-23-1111(代)